手づくり保育シリーズ

なんて「手づくり」してもらう先生たちに贈る新シリーズ。不得手先生でも子どもたちといっしょに楽しみながらつくれるのがチャームポイント。

⑧つくってあそぼう！ ダンボール

どこにでもあるさまざまなダンボールを使って遊んでみよう。
一人で遊べる小さなおもちゃ作りから、仲間でいっしょに遊べる乗り物や家など大型の製作まで紹介。切り方や貼り方などダンボール製作の基本書。

ねもと いさむ・著

B5判・96頁・定価：本体2,200円＋税

キンダーブックのプレーベル館

くわしくはプレーベル館代理店・特約店・支店・支店・営業所または本社営業総括部（03）5395-6608にお問い合わせください。
幼児の教育

第96巻 第6号
ある日

震災後の子どもたち

現象学から保育の世界を見る

保育におけるまなざしの在り方

子どもたちの生活と福祉の歴史

里親・里子

津守真

松本恵子

りんご園子

覆沢良彦

© 1997
日本幼稚園協会
ある日
保育における
まなざしの在り方

桜沢 良彦

一、存在を供与し合うまなざし

四歳児のY子は新入園児です。Y子は入園当初、母親と離れることができず、母親が帰ってしまって後、担任にまとうりついていました。Y子は担任の他にも、M先生を非常に頼りにしており、よくM先生と遊んでいました。ようやく、Y子が元気にすごす姿が目立つようにになってきた七月、次のような出来事がありました。
事例一  
Y子が私と視線を合わせて微笑む

（一九六六年七月二十二日）

私が幼稚園に着いたとき、丁度、Y子はM先生を玄関に向かって小声で話しかけていた。M先生は、作業をしながら、はっきりとした口調でY子に応じてやっている。Y子はM先生の服を片手でしっかり握っている。私はすぐ近くで、黙ったまま、笑顔であたたかくY子を見つめる。ひたすらM先生に話しかけていたY子が、私の視線に気づき、M先生の前に振り向く、こっと微笑む。M先生は目と目で気持ちが通じ合いているみたいと、笑顔で言う。この日、Y子は母親と別れたばかりで、心細さを感じていたと思われます。それゆえ、いつもY子の相手をしてくれるM先生にしみじみ話しかけ、すがるとしていたのです。M先生はそのことがよくわからていないようです。Y子が心細い気持ちになっていると感じています。Y子の存在が揺らいでいることを意味します。だからこそ、Y子は存在がM先生にすがる、自分の存在を保持しようとしていたのです。ところが、この日までに、Y子と私は何度も一緒に遊んだことがありました。したがって、Y子にとっては、私は「親しい存在」であると言えます。にもかかわらず、私が笑みながらY子を見つめる以前には、Y子にとって、私は「存在している」ことを意識しています。つまり、私は「存在していない」ことを同然にし、このとき、Y子にとって頼るべき相手として、
確かに存在していたのは、いつも親しんでいるM先生で、M先生は私が仕事をしながらY子に応えていたからだと思われます。つまり、M先生のまなざしがかY子のまなざしとしっかり出会っていなかったからです。
さて、私はY子にとって存在していないようなまなざしを意識したとたん、Y子に余裕が生まれました。ところが、私がその場にとどまり、Y子をひとつ見つめ始めたことで、Y子は私の存在を無視できなくなったました。Y子は自分に注がれていない私のまなざしに気づくや、私の方に振り向いて、こっと微笑みました。このとき、Y子にとっては、「親しい存在」として立ち現れたのです。
それまで、Y子はひたすらM先生にすがりついて、この余裕などをありませんでした。Y子は自分的存在を求める余裕をあまりありませんでした。Y子は自分の存在を求める余裕をあまりありませんでした。Y子は自分的存在を求める余裕をあまりありませんでした。
私の存在を意識したとたん、Y子は緊張した余裕のない在り方から、「周囲と柔軟な関係を結べる余裕のある在り方」になったことを意味します。Y子にそのような変化をもたらしたのは、「私が余裕のある在り方」になったことを意味します。Y子は自分的存在を求める余裕をあまりありませんでした。Y子は自分的存在を求める余裕をあまりありませんでした。
子どもが、保育者の意識を全面的に感じ取るということは、「保育者が腰を下す、自分の許しがよろしく、子どもは保育者の存在を移ろいゆくものではなく、確実な手こたえをもって、厳然として存在するものと感じることができるのです。同様に、保育者も、子どものまなざしを自分に注がれていると感じられるとき、その子どもの存在を厳然たるものとして意識しています。こうして、子どもとの保育者がまなざしを交わし合うとき、相互に「相手の存在の厳然性」を発見することになるのです。

そこで、Y子は私とまなざしを交わし合うとき、微笑みました。それは、「他者により見られることを意味します。すなわち、Y子は、自分が厳然としてここに存在していることを、まなざしの中に感じたのです。

まなざしは、いつでも相手をいきいきさせることは限ります。相手があらゆる可能性を奪い取る、石のように硬直化させてしまったまなざしともあります。それは「存在を略奪するまなざし」と呼べるでしょう。逆に、相手にあらゆる可能性を与え、生きる喜びを感じさせるまなざし、それは「存在を供与するまなざし」と呼べるでしょう。一般に、前者は「冷たい」、後者は「温かい」を形容されます。保育者のまなざしは、基本的に「供与する者」です。
まなざしです。私の微笑みのまなざしは、

「あらゆる可能性を有した厳然たる存在」として、
自分自身を感じさせたのです。そして、私に

「あらゆる可能性能有した厳然たる存在」として、

・たわむれ合うまなざし

私たちは「厳然たる他者の存在」を意識すると
き、同時に「他者により見られている自分的存在」
を意識しますから、自らと他者との間において

ない、「緊張→対立関係」は存在していないと言え
るでしょう。確かに隔たりはあるのですが、同時に

「親密感」も存在します。それゆえ、子どもと

保育者は、出会ったとたんに、自他の存在があいま

に運動となる。急速に近づいてしまうのです。それ
は、子どもと保育者が「遊びの関係」に入ることを
意味します。それを次の例に見てみましょう。

事例二：
新入園のMが私に手荒にかかわってくる

二月二十四日

十七四年四月二十一日
Mは笑顔で私を見ながら、手荒な働きかけをし
できました。この行動は、勿論私をいじめしよう
とという悪意に満ちたものではありません。それ
は、「遊び」という、「遊びへの呼びかけ」です。

Mは四歳児ですが、この頃は、まだ緊張してい
て、他の子どもたちは遊ぶことができないでいまし
た。それだけに、笑顔で現われた私に、Mはかか
わりを持ってきたのでしょうか。
なれずゆきつどりつする遊動のパース的関係であ

うる

なり、遊び相手同士は、主客の

えき

一体化しているわけではないのです。両者は完全に

く

遊びの関係にある者のまなざしは、「たわむれ合う

なさは、自己他者が別個な存在として対峙し

なさは、自己他者が別個な存在として対峙し

合いのような隔たりを生むのではなくむしろその

隔たりを縮小し、「つかずはなければという微妙な隔

たり」を生むのです。

事例三

Mが私に負ぶき、友だちにかかわる

九九四年五月二十一日

廊下で年少組の子どもたちと遊んでいると年中

組の方から、Mが上目づかいで笑顔で私に

向かって歩いてきた。少しばかりでいる様子のM
夫に、私はしゃがんだまま、しっかり視線を向け、笑顔で「おはよう」と声をかける。Mは黙って私に負ぶさり、私の首に両腕をしっかりと回す。私はM夫を負ぶって、他の子どもたちとふざけます。

M夫も私の背から首をかかってからかったりし始めめる。M夫を床に降ろすと、Mは背後から走ってきます。私にとびつくことを始める。そして、いかにも楽しそうな表情をしている。私が背中に手を回し、「これは何だ」とおどけた調子で言って、くすぐってたなりすると、M夫は笑い声を上げて喜ぶ。実に快活でいきいきしている。

このころまでに、M夫と私は親しくなっていました。この日、離れた所から私にしっかり視線を向け、まっすぐに歩いてくるM夫に、私は私への親密感を感じました。私はM夫のまなざしに引きつけられ、自ずと、好意的な思いを込めて、M夫にしっか

りまなざしを向けました。この二人のまなざしに


りません。それは容易にゆるみます。ほどなくM夫人方を考えてきました。この考察を通して明らかに

（ふさがる）とは、すでに述べたように、

自他の間にいくつかの隔たりを保つことです。した

がって、一体化したM夫人と私との間に、いくつかの

隔たり（つはずはなれずの隔たり）が生じたことに

なります。それは同時に両者のまならば、引

き合うまならば、から「たむれ合うまならば」に

変容したことでもあります。この変容は、特別な決意もなく、

自然に、しかも

容易に生じます。この二種類のまならば、一方か

ら他方へと、自然に変容し合うのは、この二種類の

まならばに、「親密感」が共通の契機として含まれ

ているからです。

以上、保育のなかに存在しているまならばの在り

注

※１ 早坂泰次郎「人間関係学序説」、川端書店、一九九

一年、二八、二三頁

※２ 西村清和「遊びの現象学」、勁草書房、一九八九

年、三一、三頁

--- 14 ---
里親制度の現在

様々な理由で家庭で生活できない子どもたちのための社会的養護の場として、児童福祉法による養護施設や乳児院という施設があり、もうひとつ「里親」への委託という方法がある。私は、緊急一時的な保護の場合はとても、長期にわたる施設での二百時間の集団生活は子どもにとって無理な非常に辛いものであり、生活の場として家庭を保障する里親委託が優先されるべきであると思います。ところが、この里親制度、日本ではいくつに振るわなくて一九九四年度の数字をみると、養護施設で生活する子どもたちの数は増えていません。
里親の歴史

「里親」は児童福祉の制度以前に長い歴史を持っており、子沢山や「私生児」、母乳不足等の理由で子の養育を他人に委ねることは昔から広く行われてきました。里親とは預ける子どものことを指すという風習に由来するという。

里親を預けることは、一般に私的な行為で、預かることの目的は幼い子どもの場合は養育料、大きな子どものように側の事情や労働力である。そこで、虐待や埋葬処理の問題がしばしば生じ、里親は専ら取り締まりの対象であった。大正8年（1919）年に内務省が子供の保護に関する実態調査を実施している。これによると、報酬をもってする一六歳未満の里親は東京都を除き九八七九人おり、三分の一以上が七歳未満であった。
表 育児施設の院外委託実施状況

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>育児施設数</th>
<th>保護児童数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>総数</td>
<td>院外委託実施数</td>
</tr>
<tr>
<td>1920（大正9）</td>
<td>117</td>
<td>87 (74%)</td>
</tr>
<tr>
<td>1930（昭和5）</td>
<td>120</td>
<td>85 (71%)</td>
</tr>
<tr>
<td>1937（昭和12）</td>
<td>114</td>
<td>70 (61%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

資料：内務省社会局『社会事業要覧』『社会事業統計要覧』

育児施設による家庭委託

戦前は、家庭をもたぬ子どもの保護施設は一般に「孤児院」と呼ばれていたが、行政上は育児施設という名称で使われていた。この種の施設は全国百数十か所あったが、表にみるように、これらの六、七割が収容した子どもの単なる社会事業としての里親を委託していた。このようないくらもを院外の家庭に委託していた。このように、営利目的の異なる社会事業としての里親委託が相当数あったこととかかわる。何故、どのような形で委託がなされていったのか、内務省による解説を紹介しておきたい（傍

— 17 —
育児院に収容する児童の養育方法は乳児は之を実に数に達したら、院内にて養育する者は多く学齢中の児童なり。院内養育の組織については、数児童を一所に集合する寄宿制度の弊害を認め、大抵家庭制度を用ひ、且つ一定家庭の収容を示す。養育後の方策に関しては父母其他親族に引略。邦にいては家庭委託制度が古くより行はれ居るも、未だ是が充分なる発達を見ると至らず、児童の委託並に出院後の監督方法等も完備し居らざるに程がある。故に今後一方院内養育に関しても最善の改良を講ずると同に、家庭委託制度の完全なる発展を期図し、以て育児事業の完
乳児の家庭委託

乳児については、まず生存のために里親委託が必要で、乳児がいないあるいは母親がいない乳児は直ちに生存の危機にさらされることとなった。最も優れた人工栄養はミルク開発されたのは戦後のことで、戦前は母親のお乳であったり、高価であり、冷蔵設備も不備な当時にあっては、限られた条件でしか使用できなかった。一般

庶民は、貫乳ができないければ重湯やり、小麦粉をとかしたのやるでしかしたが、この場合死亡率は非常に高かった。

前回とりあげた東京市養育院においても、乳児の院外委託が早くから行われていた。明治期の資料によれば哺乳児の入院あれば直に里親に託して乳養せしめ、該児満三年に達すれば帰院せしむるなり。東京市養育院実況明治二九年とある。
幼児・学齢児童

乳児の里親委託の必要は栄養と健康の問題として、生後数週間から数ヶ月の乳児期に続く人工栄養を必要とする場合に生じる必要がある。里親委託の場合は、乳児期の栄養と健康の問題がより顕著になる傾向がある。

危険な乳児期は、社会的環境よりも施設の医学的管理下で育てたほうがよいとする傾向がでてきた。里親委託の場合は、里親の家庭よりも施設の医学的管理下で育てたほうがよいとする傾向がでてきた。

東京市養育院においては、乳児期から委託され、そのままずっとと義務教育を終了後、里親委託の家族に置く、という方法が採用された。先にふれたように三歳で施設に戻すのが、里親と人情を、そしてのびない、ということもあるだろう。「成育後

むつどの現状を経験して委託した。三歳になると院に
もどすのであるが、その際には里親、里子と離れ難く、泣き悲しんだという。

乳児は里親委託という方針は建築としてはずっと続いた。しかし、大正末にはいうと、乳児の専門施設も出現した。義

養の乳児期は、里親の家庭よりも施設の医学的管理下で
育てたほうがよいとする傾向がでてきた。
私は一度里子にだされた子の家を訪れていたことがあります。この子は橋のたもとに捨てられていたなんとかかなって思いましたね。だから、里子に出たと思いますけどね。年齢は数え三歳か四歳ですね。

「先生、どの子が良いですか。手伝いにきた人です。」

「売りたいと思って並べます。」

先生は、「子供がいたといても申し訳ないね。」

早川は、「どこか知っているか。」「知っているよ。橋の近くのW村にいるだけ。」

「嫌なら、どこか別のところへ連れてきても良い。」

「ああ、ありがとう。」

「連れてきても良いよ。」

そして、早川は里子のことを病院の先生に教えてくれました。
児童福祉法における里親制度の問題

戦後、児童福祉法が制定された。そのなかで、里親は単なる習慣的なそれではなく、近代的な児童福祉の方法としての位置をえた。関係者の里親制度への期待は大きかった。この制度こそ、おおらかな精神と性格を形づくる家庭の中に育つ事の出来ない不幸な子供達を実の親でなくとも温かい家庭の雰囲気の中で育てようとする唯一の児童福祉への活路である（東京都民生局『里子の研究』昭和三〇年）。

しかし、一般的の認識は、戦前から引き継いだ里親と、いうものは営利のために預かり労働を捧げるもの、とされている。児童福祉法制定に際しての国会審議のなかでも、例え「良い里親はかりならよう」というか、面白くないことが起きましょたときにはどうするか。

このような問題がなくなってしまったのは、昭和三〇年代後半、高度経済成長の下、農業人口の激減と農業の機械化などのにより子どもが働くことが一般的になくなってきた時期以降である。以来、里親希望の理由の大半は、子どものいない家庭の養子縁組の前段階としてのそれになった。
養子縁組のための里親制度の活用はおおいに思われてよいが、それだけでは対象となる子どもは非常に限られたものになってしまう。制度本来の子どもへの福祉のための里親の開拓が遅れており、それが里親不振につながっている。

東京都の養育家庭制度（一九七四年度開始）は施設に養育家庭センターを置き、本来の里親を援護するための制度である。実はこれは、戦前からの制度による家庭委託の現代版といっただけで、児童福祉法制定時に戦前のこのような経験が継承されているわけ、その後の展開は少し違っていたかもしれない。

著者のは、児童福祉法において、戦前の「孤児院」と一概によられていたものが「保育所」として制度化され、それにより新しい内容を主張したのと同様に、古臭いイメージのつぎまとう「里親」を使わず、「養育家庭」なり「養護家庭」なりの新しい名称にすべきであった。現在児童福祉法改正が進んでいるが（本稿掲載時には結論がでていないかもしれない）、これからでもそうした変更がなされるよう提案したい。

（淑徳短期大学）

参考資料
松本園子「社会的養護の方法としての里親制度の検討」（淑徳短期大学研究紀要）四号、一九八五、同（2）、同（三五号、一九八六、

（淑徳短期大学）
子供たちにとっても私にとっても、ジンという大震災後、子どもたち

 Hector 17

 タントがブールや

 守

 一

 95年7月にブレハブを建ててから、子どもたち

 当時の記録（たつのこ通信）で確認すると、95

 年二月六日から、テントで地震後の学童保育を再

 開しています。開いたこの子どもたちの主な遊び場だった広い

 公園（大和公園）が地震直後からテント村になった。

 たつのこの子どもたちの主な遊び場だった広い

 公園（大和公園）が地震直後からテント村になり

 ました。"別所村に置いていたので助かった数個"
のテントをそこに張らずに持ちたてて、たつたのを避難していって、そのとき残っていたのは七人でした。残っていたということは、適当な避難先がなかったということ。なにまじか自宅で寝起きできる状態だったということです。あくの日（二月六日）からそのオレンジテントまでもがついてありました。子どもたちがそう名付けました。が七人の昼間の家になりました。地震直前三十七人いたが、この子どもたちは亡くなった子、大けがをした子、生き立たなかったからです。地震から三週間、幹線道路はかたづけたが、電柱瓦礫で危なかったし、倒れた家屋で寒く、子どもたちがそう名付けました。子どもたちが手分けして七人を迎えに行い、朝、寒い朝、迎えに行く。「オール」と呼ぶと、白い息を吐きながら笑って出てきた子どもたちの顔が忘れられません。でも一緒に歩く公園までで、それに気づかれた子どもたち、〇〇君のうちやねん、ポソソと指して、ここは〇〇君のうちやねん、で、〇〇君は大丈夫だったんだ。
子どもたちは焼肉と土でまっ黒になりました。でも、おふろにも入ったのですよ。公園の隣が成徳小学校の前のこのほどどんの子が在籍する小学校で、そこに避難している人たちの末尾に加えてもらって「おふろツアー」に参加させてもらったのです。地震の被害の少ない六甲山の北側の神戸市でした。します。皆さんのお世話をになると、子どもたちは「元気村」の炊き出しのお世話になることが多かったのです。

公園のテントでたつのものときつねどうんをつくったりしました。腕には「もしをつくろう」と手に入ったらどうも「たつのな名物きつねどうん」をつくった人もいました。
の方々はちゃんとしたのこに届けてくれたので
す。「すっかりましたで」とニコニコして、わ
たしてくる配達のおじさんもいました。
手紙には、避難先で元気ですごしているけれど、
早帰りたい、みんな会いたい、という内容が
二月の終わりから三月になるとき、小学校が
分的しろ再開されたこともあって、子どもたち
もポップ帰ってきても、たつつこの人数も「復
旧」していきました。オレンジテントは、たつ
この子だけでも、大和公園のテント村、隣の小
学校に避難している子どもたちのための場にも
なっていきました。
ボランティアの大学生たちもたくさん訪ねてく
れました。この中には、今すぐって続けてたつのこ
に来てくれているお兄さんお姉さんもいます。
四月には新しい一年生も五人。たつのこに入っ
てくれました。

△オレンジテントの前で

—— 27 ——
り、温度差で、日中はシャンとしていても、朝
方、夕方には、グニャっと揺れるので、付属のポ
ンプで空気を補充するので。前日空気を入れて
帰ったのですが、その日テントに行くと下図のよ
うになっている。屋根の部分に雨水が溜ま
り、その重みに、空気をつめた柱が耐え切れなく
なってつれ、そのつぶれた穴と空気の残っている柱と、テントの外周そいにおいた中本箱な
どが、ちょっと「縁」になって、さらに水が溜ま
り、プール状態になってしまったのです。なに
か、ちょっとジャと毒づきながら、仕方ないので空
気を抜いて「縁」を低くして水を流す。ちょうど
ちゅうこちゃと毒づきながら、仕方ないので空
気を抜いて「縁」を低くして水を流す。ちょうど

一帯に、ちょっとした小川ができました。すでに
ずっと小降りになった雨の中、新一年生たち
はその小川でさっそく水あそびを始めています。

いつもはこういうかげに立っているのが
代わりぼんこにポンプを踏み続けました。たっぷ
り一帯に、ちょっとした小川ができました。すでに
ずっと小降りになった雨の中、新一年生たち
はその小川でさっそく水あそびを始めています。

いつもはこういうかげに立っているのが
代わりぼんこにポンプを踏み続けました。たっぷ
り一帯に、ちょっとした小川ができました。すでに
ずっと小降りになった雨の中、新一年生たち
はその小川でさっそく水あそびを始めています。

いつもはこういうかげに立っているのが
代わりぼんこにポンプを踏み続けました。たっぷ
二時間以上かってテントを元の形にどし
した。中も予想したほどはなかったもの、か
なり濡れていました。その始末も手伝わそう
とテントの外に出ると、雨は完全にあがってい
て、子どもたちは遊びに夢中でした。あたりにい
くらもあら木切れや柄の折れたシャベルで、水
溜まりからの水路をつくったり、泥まんじゅうを
つくって投げあい、雪合戦ならぬ泥合戦。またた
で、エヘケンにしごき、と言われて、もう電
気来てる洗濯機も動いところはややな、と思い、「やめ
とけ」をやめました。

ポクら毎日「アウトドア」やと豪語するテント
のたつのたこでしたが、雨の日と強い風の日は困り
ました。5年7月にプレハブのたつのにに戻ることがで
きて、約半年間のオレンジテントのたつのたこは終
りました。半年ですんだということもありました。

オレンジテントとその周辺は解放区でした。
たつのこの子どもたちにそれぞれに地震によ
っても（ないが故に）子どもたちは目いっぱい
遊びました。

オレンジテントとその周辺は解放区でした。
たつのこの子どもたちにそれぞれに地震によ
っても（ないが故に）子どもたちは目いっぱい
遊びました。

最初に書いたように、親たと、たくさんの
人々の力添えでできたプレハブで、たつのこの現
在三十三人の子どもは、元気です。今も。

（たつの小学校クラブ指導員）
大きなようになった子どもとつきあう（2）

津守 真

毎週二回コロニーの体育館で行われる「音と動きての活動」（注）のクラスで私が出会うH子は、いつも時間になる前に来て待っている。両手で膝を抱えて床に座っていることが多く、とても表情が良い。私はその姿勢が、いまの彼女の表現かどうかと思っている。このクレープティヴダンスは保育と考え方方が同じで、従うべき型はなく、だれでも自分らしく動くことを大切にする。リーダーはそのような場をつくる働きをする保育者である。二十四時間制を兼ねている（注）。ウォルフガング・シュタランのクレープティヴダンス、「障害をもつ人を加えて行うが、障害をもつ人を近くに近づけるのでなく、違った能力をもつ

—— 30 ——
幼児期のH子から私が学んだこと

水に手を入れる——生命性

「H子がトイレの水道の水を洗面器の中に一杯出し、勢いよく盛り上がった水の中に手を入れている。その水は洗面器の排水口から流れながら、逆流して洗面器にたまる。そこ手を入れている。H子は私の手をとってシャワーの水栓をあげさせる。」（一九亜五

触れ

H子は頻繁に体育館の一隅にあるトイレに通う。そのたびに、私の頭を指さし、今日の行動をどう理解したらいかいのか、いつも私の心はとまどっていた。回り返すこの行動をどう理解したらいかいのか、いつも私の心はとまどっていた。私はH子が幼児のとき母子愛育会家庭指導グループで三年間ほど、週一保育をし

校に行っていた。雑巾を水にひたして持ち歩くので、私は床を拭くのに忙しかった。地域の小学

範囲で、私の会うこともなく二十年を経て、この子が幼児期のこと私はほとんど忘れていた。最近になって、そのころの記録を読み直し、鮮やかな記憶がよみがえった。私が養護学校の教員になる以前のこと、保育研究の考え方を転々させた初期

である。H子の水のつきあいは、そのときには未だ文章に書ける心境ではなかった。いま取り出してみるとはっきり分かることがいくつかある。
年H子四歳のとき。子どもの側からいうならば、手は身体の一部にとどまりず、自分自身の全体と考えてよいだろう。実際、手を水に入れているうちに、子どもは全身水の中に入ってしまう。泡の盛り上がる水は生命性そのものである。H子は生命性の中に自分自身をおく。激しく噴出するシャワーの水を体にかけ、石鹸を体にぬり、シャワーで流す。

大人の感情とH子の反応
H子は私の手を水栓にもっていき、もっと強く水を出させようとする（私が水栓をコントロールしていることを知っている。それに対する反逆的反応である。水の中にある何がいっぱいあって溢れ出すほどだ。水が水栓を一杯に開くまで、私の手を水栓にもって置いて要拭を入れ、雑巾を入れる。水はぎっそりと下に溢れる。心の中に何かいいっぱいあって溢れ出すほどだ。私が水栓を一杯に開くまで私に要する。私は正直のところ、こんなに応えていられているにもっと要求するのかと。むらむらした気持ちで水栓をいっぱいにあげた。そうするとH子は流れ落ちた水を手でいじったり、モップでこすったりしている。大人は自分自身の許容の限界を越えて行動するのには感情の助けを要する。むらむらというのは、相手に対する攻撃的衝動的の感情である。

H子は私の手を引いて、シャワー室に入ったので、私は湯を出した。私は自分の感情を子どもにぶつけることを恐れて、見えないところにかくれた。H子はシャワーに長いく間に浸っている。
シャワールを使っていったように思う。午後は水栓を自分で開き、水を出したり止めたりして、自分がコントロールすることを試みていた。それから雑巾を水につけて、水をあふれさせた。私が抱いてもすぐに逃げた。私の間の感情を考えれば当然である。子が水をしていたときに傍観しているのは、よくないようだ。いつ止めようかと監督して

H子がシャワールをしていった時に、O先生がシャワールをとめた。水をやめさせればもっとという所がある。それは大人の価値観の限界を越えることである。O先生がそれをとめたら、ちり紙をひとつみトイレにいれて水をあふれさせた。それを見とらざるを得なかったとき、O先生がそれをとめたら、ちり紙をひとつみトイレにいれて水をあふれさせた。それを見とらざるを得なかったとき、O先生がそれをとめた時、だれでもが抱く感想である。

次のこと、私は他のことをしていてもこの子と本気でかかわろうと考えて保育に臨んだ。そして子どもが納得するまで付き合った。その日、H子はトイレに入り、フラッシュを押して水を流し、便器に手をいた。水の激しい音がした。本人には激しい触覚が感じられた。H子と私とは目高さが同じになり、H子は何度も私の顔を見た。何か对等
の位置に立ったように思った。

子は数度流して手を入れてから、私の手を引いて庭に出た。この日はトイレの水はそれだけで終わった。


午後からシャワー

私は子と一緒にシャワー室ではだしになり、デッキブランで一緒に床をこすった。

子は私を見て笑った。私は、水がかかったら逃げないでびしょびしょになっていた。

子が手に持っていたシャワーをかいて、子と同じように窓や壁に押し付けた。角に押しつけると水が滝のように落ちる。子は私が掌ののを探していた。子がシャワーを


子は私が見えないところに水をかけた。そうして、子はその子の肩を足でさわり子を見て笑った。しゃらくして、子が手を引いて庭に引かい足を


子は私と一人でシャワーをせよとすっついた。私と子が入れて庭に行き、抱いたまま庭を何度も周って行った。子はうれ


子は、私が楽しそうである。私は他の子と滑り台をすべっていたとき、子に声をかけた。気持ちがよく


子はいままで天をすることをやくようなことをうけた。朝のトイレの場面から始まり、私は、子との間のことをたきせつにしようと思った。よ
ここでどう見えようとうつわにやった。きっと、子から見たら、私は優しい顔をしていったと思う。いままで、水をやらせもしたし、それを見守ることもした。しかし私の顔はこわい顔だったろう。少なくとも親しい顔ではなかったろう。きょうの子と私の間は柔らかかった。

今日の私の態度は、数日前「保育の体験と思考」（P.47～49）を書きながら、附属幼稚園の森の組の子どもに対する私の在り方を考えてきたことから気がついたことである。保育においては、自分と子どもとの間を大切にすることが第一である。私はこの日頃、子どもとの間に徹していなかった。それだから、今日は久しぶりに童心にかえったようですね」と言われた（一九七六年春「子五歳のとき」）。

断水をというので、パケツに水をとっておこうとしたら、子は水栓をあげて手を引くかが出た。断水だというので、トイレに行ったら、水が出ない。私に水栓をあげて手を引くかが出た。断水のことを説明するが、ききめはない。五分ほどで出るが、子は見向きもしない。断水のことを説明するが、ききめはない。水が出た。すると、子は怒ったように私をシャワー室の外につきだした。水が出なかったのはあたのせいだというふりたった（この傾向はいまも同じである。%/の回をいかにしらんにしようとする。また外へ突きだす。こんなことははじめてである。こんなに泣きわ
二十年後

H子がコロニーで夜も昼も過ごすようになったとき、その最初から彼女は体験館での音と動きの活動に参加した。しばしばH子は私を呼びかけ、髪の毛を張り走った。しかし、身を避けたのが常である。私がある時期、H子を避けた。そのうちに私、H子の心と真面から向き合わないから彼女はまずまずは激しく私に向かうことが分かってきた。そこで、H子と向き合い続けても、私が受け身になるだけでなく、私もエネルギーを出してH子に向かっていこうようにした。

この日H子、最初私に頭を打つつけ手に喝採ついた。私はしばらくぼっとする位だった。何度もやろうとするので、私は「やらないで」と止めた。そのあと、H子は動
F先生にひどかった。昼食のとき、何度もいろいろの職員に追いかけられ、私、は早めにH子を体育館に誘った。音楽がかかると、H子はすぐに私に向かって、髪を引っ張ろうとし、私の手に噛みつくようにした。はじめ私は受け身になり、向かい合った姿勢でH子が前進すると、私は後退した。次に私が積極的に前進し、H子が後退して歩いた。H子は声を出して笑った。それでもH子はチャンスがあれば手を伸ばして髪を引っ張ろうとした。何度もトイレに行った。九四四年秋H子二十三歳のとき。

こんな具合にして半年以上が過ぎた。H子の大鼓を叩くと大きな音で一本調子で叩くので、みんなが驚いてすることもあった。H子と音楽と一緒に歩きながら、私はこの子の過去には辛いことはどんなに多くあったろうかと想像した。私がH子の後ろ側の床にすわると後ろを振り向いて噛みつくようにした。後の下方の空間は複雑に捻れているみたいに思える。後ろのことばは忘れ前に向かって歩こうと私は話しかけながら手をつないで歩いた。この日も何度も噛もうとした。H子が声を出してしゃがんでいた。体育館の音と動きの場は、そんな自分を含む表現できる空間である。しばらく私とH子と二人だったので私は専念してかかわることができた。これま
でH子は自分が理解されず受け入れられない感を知っていたので、私はH子さんも苦労が多いかと話し合いかねだから音楽と一緒に歩いた。そしてついいまも激しく嘆きついたH子の心の内を察した。こうして三十分程を過ごした。（一九九六年H子二十五歳。）その後、私ははいいろと考え、相談し、H子さんは大勢の大勢の人を居住する施設の生活が嫌なのだろうと考えた。そして近隣でグループホームを開いている方の家に移り住み、昼間の活動だけコミュニティ通うようにした。普通の家庭で住むことが分かったとき、一、二週間でH子さんの激しい行動はほとんどなくなくなった。施設からホームに環境が変化することがこんなにも重要なことがよく分かった。それからほぼ一年たつが、嘆きつくなことはほとんどなく、「音と動きの活動」ににもここに住していこう面があった。する人もありしない人もあるので、H子さんは私と背中を合わせ、嘆きを感じたとい

最近でもA先生がリーダーの日、ふたり組みになって背中を合わせ、呼吸を感じるという場面があった。背中のぬくもりを通じて何かが通じ合った。彼女は二十年前の幼児期と現在とことを並べてみると、共通点を多く発見する。
2 嘩む

H子は他人からの拒否や攻撃の感情に遭遇すると、唚んだり、髪を引っぱったり激しく行動する。H子が唚みつくときは、他人からの拒否や攻撃の感情を感じているときを考えてよいだろう。

思いきってかわる人を求めている。

中途半端な気持ちでかわっているはずである。この人は対等になって本気で付き合う覚悟をする人を求めている。このことは幼児期も現在も変わらない。

4 人と一緒にいることを求めていている。

あるときは対一の親しい関係を求めていているが、それだけではなく仲間の中に参加することを求めていている。そのことは幼児期の生活にも見られるし、大人的生活でも同じである。

私がH子さんの幼児期のことを次第に鮮明に思い出したように、H子さんもかつての日々新しく眼前のできごとを取り組んで二十年を過ぎ、いま大人として私とかかわっている。私も同様である。
逆統合保育の幼稚園

大蔵 みどり

筑波大学附属大塚養護学校は東京都文京区の高台にあり、校庭からは信号に従って走る地下鉄丸之内線の電車や東京ドーム、後楽園遊園地の観覧車が見下ろせます。全国の知的障害児の養護学校の中でも、幼稚園を置いている学校は十ほどしかおらないので、たいへん珍しい存在だと言えるでしょう。四歳児と五歳児、定員はそれぞれ五名。先生は男女二名ずつと週二日の先生一名で指導に当たっています。広い二教室とゆったりした遊戯室、さらには体育館。大きな総合遊具のある園庭、高等部まで合わせて全校生徒八十名それぞれに文京区ということを考えたら広々とした土の校庭などがあります。

私がこの学校に来てまず驚いたのがこの恵まれ
た環境でした。私が通っていた新宿区の保育
園や以前勤めていた都心部の私立幼稚園と比べ
たら……。こんな恵まれた環境がなぜ障害児だけに
は許されているのだろう。そう感じたのはやはり
私のだけではありませんでした。幼稚部の統合保育
に三年間通ったゆきちゃんのお母さんはこの学
校のすぐ隣に住んでいて、新幹線のすべり台で私
にも遊ばさいという娘の言葉に養護学校が普通児
にも開かれてはいいのにと思っていたのだそ
うです。

大塚養護学校幼稚部では、平成三年度から研究
を開始する一般的な統合保育と区別するため「逆統
合保育」と呼んでいます。統合の幼児を幼
稚園として毎日通い、給食も食べて一時までいる
のですが、学籍の問題は未解決で、研究として、

「逆統合保育」の基本は障害児教育ですから、幼
稚園では一人一人が「同じ」ということを前提と
するのではなく「違

流れていて、インテ
グレーションからイ
ンクルージョン（包

— 41 —
自由遊び

在籍児

統合児共に好むのは、トランプリ

砂・水遊び、自転車や乗車車、ままごと、怪獣

五歳児十四名の混合しかも半数は障害児なので大

て割り保育の幅の広いものと言えるかもしれない。

実際にはどんな保育が行われているのかを紹介し

ますよ。

幼稚部の「集まり」では呼名の時に、表に顔写

真とマーク、裏にひらがなで名前を書いた木製の

名札を使い、音声だけでなく視覚的にも示しなが

らテンポ良く出席を取ったり当番を明らかにした会

屋の移動などいつも決めまった流れで進行させてい

ます。そのことをダウンや自閉の子にとってとても

良いようです。「集まり」の後半は歌です。何

か小道具を持って歌に合わせて踊ってみんなの周

りを回ることはどの子も好きです。北風小僧の寒
太郎は笠を身に付けて、雨降りくるまる子はかわいい傘を持って。また、前に並んで楽器を鳴らしたり、調子のいいCDをかけてダンスや体操をするのもみんな好きです。ラジカセのスイッチを押すのはけんやくんの役目です。けんやくんは先生の踊り方をまねはありません。音楽がかりみんなが踊っているのを見るとき嬉しくてびわねて喜ぶのです。彼に対して踊り方が間違いがあることなどは言いません。むしろ彼のひたすら一つの表情は踊りは義務感をするものじゃないよう教えてくれます。だから私は、今は踊りたくなり奇異に感じません。

- 造形

おおむね週一回。設定保育「造形」の時間から

△幼稚部の「集まり」の場面　年に3回の公開保育の日
学の健常児まで幅広い能力差の子どもたちが楽しむように小麦粉粘土作りや絵の具を大胆に使う活動などを工夫しています。

幼稚部では、週二回設定保育「体育」の時間があり、全身の関節を動かす体操を繰り返し行っています。それは運動不足や肥満になりがちな知的障害の子どもたちには特に良いことでしたが、統合児たちには簡単なことの繰返しでも飽きの傾向があります。しかし、三年目の二年生の子が多いので音楽かけてリラックス体操などみんなが楽しむ活動を工夫しています。

特にこの子どもたちはここが良かったなと思う浮かぶ例をご紹介しましょう。

じゅんや、比較的能动力の高いダウン症児。統合児たちの食事中のおしゃべりを聞いていて、けんめいに自分も同じように話をしてしようとしたり、統合児同士で遊ぶ傾向がやはりあるのです。彼は二歳で入った統合のゆみちゃんの頼もしい兄貴分で、地域の園はどこも入れてきたかったとのことでした。}

ゆうた、地域の園はどこも入れてくれなかったと害児らしさき慣れない症状をもっており、服薬をしており、稀には発作もあるようで、注意深く観
察すれば普通児と違う所もある。が、全く集団生活に支障がなく思い切り生活を楽しんでいる彼が普通と呼ばれていたの何が普通なのかと憤りを感じます。

たかひろ 彼は健常児なのですが確かにとっては変わりたかった印象の子です。彼は曲がった事が大嫌いで、保育園で運動が苦手だったこと等のせいでも仲間外れにされていたって移ってきた。彼はこので自分らしくすぐし、思い切り自信をつけ、運動遊びも好きになり苦手と決めこんでいた平均台に自分から挑戦していきました。来年は地元の保育園行くことになりました。

みさえ 三歳から三年間通った彼女ではありませんよ。 CONSTRAINTSiedadでしません。学芸会の前の晩は眠れないし秋のうちから入学が不安という子でし

の学校に適応できなくなっただけもにあのかの養護学校が開いていたに、思いやりを持ち見ていると、いじめや登校拒否等で普通の学校に適応できなくなった子どもにあのかの養護学校が門戸を開いていたに、思いやりを持たなければいけない。障害児という名前をつけられた子は入れていない。園もぜひ検討していだいただきたいです。

（筑波大学附属養護学校幼稚部）
四季の庭・四季の道

場合によってはテラスを利用してもやってのけることかきます。

池づくりの準備

園芸資材を取り扱う会社に出向いてみれば所要のブロックや煉瓦を求めることができ、水草や魚類を買うこともたやすいことです。

前へ仮設定する

平らな場所を見つけてまずブロックを並べて長方形の池を仮設してみましょう。

市販のブロックは長さ三十九センチ、幅三センチ、高さ十九センチですから縦に置くか横に置くかで大きさに関してもいろいろあります。深さは水深で定めます。市販のもののは長さ二十、幅十一、高さ六センチを併せてつくると

池の囲い

インの出来上がったらシャベルで池の周囲に土を盛り上げ池の底面を平らにします。ビニールシートをはりなりしておきます。ビニールシートははり

長方形の池の形はブロックの数で決まる。
水を入れる
さえてビニールシートを敷いたらホースから水を入れて完成となります。所々に苗を植えた鉢を沈めて植物の葉がよく日光にあたるようにします。水中に鉢植えを入れるとい、三日半は水が汚れますがやがて泥は沈澱し、きれいになります。お得に葉が水面に浮かぶ種類は鉢がようやく水に浸る程度にしてやります。水の底に鉢が沈むようにしてやらないと風で倒れて池の底に鉢が沈むようにしてやらないと風で倒れて

水草をたのしむ
水草はいろいろの種類があり、大小、その性質もそれぞれちがいます。しかし総じて水面をよく日光があたることが必要です。水面に浮かんで育つもの

ウォーター・ポピー：ブラジル原産の多年草で夏から秋にかけて水上に僅かにきん出てあざやかな黄色の三弁花を盆状に開きます。ケシに似た花の花茎は約五センチ、花は朝に開き夕方には閉じますが調子がよければ次々と毎日咲きます。葉は円形で水面を浅く這い伸びる茎は節毎に発根しますから二、三節つけで切り取り水面に浮かべておけば殖えます。戸外では冬に枯れてしまうので、適宜の大きさの容器に沈めて水温五、六度Cを保つようにして室内で保護しておき、五月末には戸外の池に浮かべてや
四季の庭・四季の道

ウォーター・ホッピー Hydrangea nymphaoides

ウォーター・ヒアシンス Eichhornia crassipes

ポタリング Porphyra platycarpa

ヒッジソウ Pistia stratiotes

ボタニカル・ウキクラ Nymphaea tetragona

引き寄せ植の分を分けると一夏にずい分繁殖します

和名をホッイアオイと

ウ柁という

が姿を

の布袋

は

淡々として

波が

淡々として

お腹そっか

淡々として

なづかれ

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々として

淡々とした
ボタンの花に似ているのでボタンウキスとも呼ばれます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来としたもので、昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんでいます。昭和初年に日本に渡来したものですが、近頃は魚沼の店先に浮かんです。
四季の庭・四季の道

ヒシン
全国どこも水沼に対し自生している浮草です。
花は水中で咲き、実実は皮が硬くて中身は澱粉質で食べられます。果実の形が鬼に似ていても同じ。

ヒルムシロ
葉は水面に浮かますのが形がワロダ（両座）のように円形です。アマガエルが座ると思わないの巻き起こす。

ヒンシンサ
日本各地の沼に自生しているスイレンの一種で、花は小さく、径四〜五センチの白い花を夏に開きます。鉢に植えて池の底に置きます。ヒメスイレン・ペロポラという名で市販されている小型スイレンですがメキシコ種とヒンシンサの交配種で淡黄色の八重咲きです。

ヒメコウネ
黄色のまろやかな花が夏に咲くコウネ（河骨）の一種です。鉢植えとしては水底に沈めておきます。

（園芸研究家）
もたちは、のびのびと見ている者が心地良さを感じ
じるくらい。「汚れることも何も気にすることはない
」と確信に満ちた表情で遊んでいました。
そんな遊びの中でも見学者の注目を引き、一つの
出来事が起こりました。年長の男児M君が、室内
で飼育されているザリガニを二匹砂場につれて来
ました。M君は、二匹のザリガニを砂の上に置
き、山を作り、水路を作り、そこにザリガニを入れ
ました。T君、K君、Y君もやって来て、山や
水路作りを一緒に始めました。水路には木で橋を
わたし、山にはトンネルを作りました。M君は、
出来上がったトンネルの中にザリガニを通しても
れています。二匹のザリガニをトンネルの両側から入
れてみます。トンネルの中で出会っているザリガ
ニを見て、「すっ」と歓声をあげていました。水
路の中に入れて見たり、又山を登らせてみたりし
ていました。Y君がザリガニに砂をかけたのが
きっかけになり、T君、K君、M君もザリガニに砂
をかけ始めました。砂の中からザリガニがはい出
してくる様子を興味深そうに見て、それを繰り返
し行っていました。見てる見学者の表情も次第に堅
くなり、私もドキドキしてきました。内々早く
保育者が来てくれないかなと誰も思っていった
ようですが、ザリガニを埋め始める前に、一度保育
者が様子を見に来ました。「ザリガニを埋め始め
した（後に話したわっ）行しつつ、他に移動して行きます
通でしたら、ザリガニを飼育ケースに戻すようM
君たちに言ったと思う」とのことでした。この
日、見学者も興味深そうに見ているし、禁止務多
くなることを懸念して、少し様子を見ることにし
たそうです。

繰り返し、ザリガニを砂に埋めていけるうちに一
匹のザリガニのハサミが折れてしまいました。遂

— 53 —
見学の翌週、見学者はそれぞれ連絡して、子どもたちを見学に招待しました。H幼稚園の保育者Sさんは、「生命あるものに焦点を当てて育てる」という視点で子どもたちに話をします。動物を自分自身の心づかいがただならなかった保育の中でも自分自身の心づかいが伝わっていいくらいがよくわかった。動物を自分の仲間と思って遊ぶ子どもたちが、子どもたちにどう対処して良いのか迷いがあったちが、ザリガニやハムスターを、仲間とと思うようなり、おもちゃとして扱っている。単なる物として
の扱いだった」と意見が述べられました。「保育者と子どもは、一人の人間として向き合っているのですから、命あるものに対する姿勢は、はっきり示され方がよい」と強い意見も述べられました。

このセミは、改めて子どもと飼育について考えられる機会となりました。どの幼稚園にも、沢山の小動物を飼育しています。大人も子どもも、それぞれの小動物から、不思議な生命の働きをかわいらしさ表情で見ようとする心を感じさせられ、小動物に接し、悲しさを味わい、親しみが与えられたり、情報感謝の表現を示したり、死を通じて、再び帰ってこないように伝えられました。皆が同意しました。しかし子どもたちと一緒に、そうした小動物に親しむことが必要なのかでしょうか。

こうした内容のセミからは、見学者が統一した見解をもつ事が出来ませんでした。又、大学の方からも、見解資料を作成されており、先生方と、この問題をどう引きずっていこうかがテーマです。「保育」を作り、いかなければならないか、それに対する私たちは、特に学んだセミの後、研究会では、「時間」を巡って、「幼児教育と哲学」を「子どもと遊び」について、学び合い、直接小動物や飼育について研修会を持ち、記録を残していきました。大学の先生方から、この問題についての、それぞれに考えた先生方が、必要であったと距離を置かれたので不思議です。
ある日の育児日記から

佐藤 和代

有は五歳になりました。もうお兄ちゃん！

甘え子。この頃すぐに「こわがり」がひどく

ないとダメ、テレビもひとりでは見られない、

洗面所も台所も「ひとりじゃごめえ」…。まあ親

が、圭はイラ伊拉してしまうようなのです。そ

かしたよとほとんど小姑けんかがたえません。

圭にしてみれれば、自分はそんなに甘えられない

いやいや

やならと言われてはいたし。有のようにベタベ

たと、遠慮なく甘える子にイラつく気持ち、わか

めわされている日々。慣れない、こめね。

でも圭ちゃん、お母さんだって有にひとりでト

イレ行ってほしいけど、有は「トイレからお手が

出たらどうするの…」って泣

くのよ。これってやっぱり

こわいよね。ほっとけ

ないでしょう？

これって子ども時代の

根源的恐怖だと思う
保育の本から

『育児日記からの子育学』を読む

はじめに

この本（勤草書房、一九九六）は、友定啓子さん、入江礼子さん、橋爪千恵子さん、樋田三月さんという四人の方の母親が、わが子の育児日記をもとに保育の省察をおこなったものだ。今の中学生から大学生にまで成長した子どもたち。おもに乳幼児期の、しかもきょうだい関係の中での成長に焦点をあてて、記録を整理し、過去と現在の見方、理解の変化をたどりつつ、それぞれの自己発達論を展開している。この本が出版されたことを知り、友定さんたち、ついにやったのね、というのが第一印象だった。私が彼女たちと同じ大学の児童学科で、数年後輩として学んでいた頃から、育児をしながらわが子の記録を使って研究会をしている先輩グループ

浜口 順子

— 58 —
保育の本から

保育員の存在を知り、四節に言及しましたが、共同生活者として子どもを育むことがあった。子どもの育成を観察しながら、記録をとる仕事の機会は、一般の研究者にないものであった。私たちは、何とか子どもの成長を、観察しながら記録する仕事の中に、仕事として見なさんとも、子どもの成長を理解することとして、共同生活者としての役割を果たしてきた。

育児日記を書くこと

育児日記と母親の関係のように、育児日記と母親が同じ母親として、コンスタントに記録を残していることが、母が育児をし、育児記録を書くことの意義をもつ。私たちは、育児記録の重要性を理解し、育児記録を書くことを、母親としての役割を果たしてきた。}

育児日記を書くこと

育児日記と母親の関係のように、育児日記と母親が同じ母親として、コンスタントに記録を残していることが、母が育児をし、育児記録を書くことの意義をもつ。私たちは、育児記録の重要性を理解し、育児記録を書くことを、母親としての役割を果たしてきた。
四人の著者たちと大きく違わないのではないかと思う。たと私の記録形式に一貫性がないのは、書き続ける姿勢に自然さが欠けていているのか、省させられた。
入江の場合、育児記をつける始めのは、「自然ならしい、だという。肉体的な疲労から、何日も記録をとれないこともあった。それがでも、少しずつ続けたのは、いつか子どもたちの手が離れたときにじっくりと楽しみながら考えても、という思いがあっただから。元々、だとしている。毎日新しいことをする成長者がおもしろく出てくるので、「記録に残しておかなければ、母親の家庭という四時間育育をつづけるところ、母子が密着してしまいそうなど、育児記録を書くことにより子どもを他者として距離をもって見ることができた」と復田が回想するように、「書くこと」は子どもと自己との精神的な距離の調整を含む。子どもたちと自己との間の距離を調整し、成熟する子どもたちと自己との関係を育むことが目的である。
ことは実際にはなかなか難しいのだが、入江たちが互いの記録を読み合う機会をつくることで、その問題を協同して克服してきているのは賢明だったと思うし、育児日記を「子ども学」につなげるための「策略」としては、非常に現実的で、親近感をもおぼえる。

ふりかえる時期

著者たちが幼児期のわが子の成長を、なぜ今、ふりかえるのかに判った。幼児期をやっくりとふりかえることができる時期にはいったとしても、やはりなぜ今なのか。現在の私自身、三歳と八歳の子どもと生活し、この本で主観化されているきょうだい関係の葛藤に会わない日はない。小さなスパンでは日々の保育をたびたびふりかえる。それは今日や明日の保育のための、余裕のない追い歩まれるような作業だ。しかしこの本を読む限り、どういった心の状態表しているのだろうか。当時子供たちの気持ち、この記録を読み返した時、私は胸を突かれる気がした。Tの思いばかりでなく、Aの思いまでがひしめいてきたか、という文者（橋爪、一三〇、一三一頁、傍線筆者）である。

子守歌
きょうだいの上と下

著者たちが皆きょうだい関係を取り上げながら、下の子を

著者自ら身も指摘するよう

迎えた時期の年齢差（一年ほどではあるが）のも

上の子の成長でも、入江は「自己喪失の危機」を

乗り越えることと見、友定は「自己再編」とし、

上下の子の在り方を見つめ、「ネツネ」という存在との関係から

見た人、下の子を注目した人、下の子どもに焦点

をあてた人、「ネツネ」、というモデルとの関係から

見えている人と分かれていることも興味深い。同じ

上の子の成長でも、入江は「自己喪失の危機」を

乗り越えることと見、友定は「自己再編」とし、

迎接される時期の年齢差（一年ほどで、あるが）のも

上のような表現は大きい、逆にいうと、時期の発達の機

延伸的な「意志」を見るによって、「起こり、というような外見的で消極的な表現は自

然解消してしまっている。
保育の本から

んで印象づけられ

上での子は下で、

研究と下の子どものとで半々の構成になっている

毎のように効果的で、

選んで必要な研究者に、「なぜ今？」、「なぜ上

それぞれの著者に、「なぜ今？」、「なぜ上

下）の子を」と、もう一步立ち入って尋ねて

わが子」と登場する、たとえばビア

シェの知能の研究や、まだようこによる言語発生

に関する研究では、研究テーマと研究者とが論文

の上で有機的に交わることはない。それに対して

研究テーマからの研究は、「なぜある時点で、ある視

点を抽出し、あるテーマを引き出したのか、とい

う問題設定することによって、研究者が潜在的

に抱いている「あるべき保育」像を、3Dのように

中からの創造した人による、それ自体で充足したそ

れ以外のコースはありえないかた保育を、中から

問いなおす視点が、保育の価値を問うことになる

保育学を可能にするのかなとも考えた。

（十文字学園女子短期大学）
今月号の「四季の庭・四季の道」
を読んでいると、わが家の庭先で初めホイアイオイの花が咲いたときのことが思い出されます。

日当たりの良い、戸外の花壇ケージでメダカを飼うと、それは見つけて次々に卵が産まれ、それを見つけてボキボキと卵を孵化するのが子どもたちの楽しみになりました。さらには、その根にメダカの卵を見つけてから、その卵を持ち上げては卵をみつける別の容器に移すのが私の日課になりました。その夏には、メダカもホイアイオイもおもしろいようにふえました。けれども、霜が降るころに

次に次の春、今年度はメダカの卵を孵す目的でホイアイオイを買い出し、大きな卵が現れた高い茎を淡い藤紫色のいくつかの花が咲き大切に育てました。その日の夕方に水のに沈んではしまいそうにあり重に咲き始めの姿はさびしく美しく、道行く人から声をかけてもらえたり、写真を撮られてもはいという人も現れました。土に植えてあるのでなく、肥料を残しただけです。生まれたばかりの心当りがないうのですから、「日当たりがよい」と思われるのはメダカのふんと食べ残したけれども、それが奇しくも心当りがないことになる。

幼児の教育

発行　平成九年六月一日
発行所　日本幼稚園協会
発行所　日本幼稚園協会
印刷所　東京都文京区本駒込
図書印刷株式会社
○三五三五五十六三図書
○三五三五五十六四図書
○一○一九一九四○
○一○一一九四○
○一○一一九四○
○一○一一九四○
○一○一一九四○　

☆万一枚写・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。

—64—
創業90周年記念出版

21世紀の保育を見つめて、今、保育の基本を問い直す
幼稚園教育要領や保育所保育指針の中で示されている「保育の基本」は、さまざまな形に受容され実践に移された。しかし、そこに誤解に基づく混乱はなかったか。本シリーズは、具体的な事例を通じてその混乱を、ただし、あるべき保育の姿を提案します。

保育の基本〈全6巻〉

◆第1巻  環境を通しての保育とは
◆第2巻  生活と遊びを通しての保育とは
◆第3巻  個と集団を生かす保育とは
◆第4巻  自由の中で規律が育む保育とは
◆第5巻  発達に合わせて援助する保育とは
◆第6巻  総合的指導による保育とは

編集委員
森上史朗（青山学院大学教授）　高杉自子（子どもと保育総合研究所所長）
今井和子（東京成徳短期大学助教授）　後藤節美（別府市・石垣幼稚園長）
田中隆行（東京都・向南幼稚園長）　渡辺英則（横浜市・港北幼稚園副園長）

●今、特に問題となっていることを各巻のテーマに
保育現場で、今特に問題となっていること、誤解されていること、混乱していること、見直されつつあることなどを取り上げ、各巻のテーマにしています。

●子どもに寄り添う保育を
「子どもから」という発想を軸に、子ども理解、一人一人を見る、集団生活の意味や表面的行動の奥にある意味を見る、ということを考えつつ、子どもに添った保育のあり方を考えていきます。

●これからの保育への提案
次回に予想される教育要領の改訂をも視野に入れてながら、これからの保育のあるべき姿を考察し、どう実践していったら良いかを具体的に提案していきます。

A5判・216頁　セット定価：本体12,000円＋税

キンダーブックの
フレーベル館

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支店・支店・営業所または本社営業総括部（03）5395-6308にお問い合わせください。
弊社は明治40年、幼児教育・保育への寄与を目指して東京・飯田橋の地に誕生しました。以来、皆様のご支援をいただきながら今年創業90年を、また、昭和2年誕生の「キッザブック」は創刊70年を迎えることとなりました。この創業90年・創刊70年を記念し、21世紀を視野に入れた情報源・知識源『現代保育用語辞典』を企画いたしました。新しい時代に対応する常備書として、皆様のお手もとにご用意いただければ幸いです。

基本的な保育用語約2,000語を精選、50音順に配列し、解説。

現代 保育用語辞典
付録：外国の保育教育40カ国

現代保育用語辞典

保育を語る時に欠かすことのできない基本的な用語、新しい保育観・子ども観から出てくる言葉などを通して、これからの保育のあるべき姿を分かりやすく示す辞典。ただし語は英語訳付きで、その保育に直結する語をポイントとし、引きやすく、意味がすぐ確認できる辞典。

編集委員
岡田正章・千羽喜代子・網野武博
上田礼子・大戸美也子・大場幸夫
小林美実・中村悦子・萩原元昭

執筆者
保育及び隣接分野の
最高権威者330名が参画。

A5判・592頁・定価7,767円（税別）

好評発売中

キンダーブックの
フレーベル館

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社営業総括部（平日9:30-18:00）にお問い合わせください。